

新潟理窓

第23号
発行所
県支部事務局



支部長御挨拶

新潟支部長
木南 誠

昨年八月の理窓会新潟支部総会で支部長に選出され、二年間支部長を務めさせていただきましたこととなりました。微力ですが、理窓会新潟支部の発展と会員親睦のお役に立つよう努めたいと考えております。会員の皆様には、いろいろとご協力願うこともあるかと思いますが、ご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

私の理窓会との関わりは、昭和四九年に理工学部数学科を卒業し、新採用で県立高田盲学校に勤めたときに、南保悟先生（元支部長）からお誘いを受けたことにはじまります。今のような新採用研修制度がなかった時代に、南保先生から陰日向に面倒を見ていただいたことは、その後の教員生活に大きな力となりました。

また、私は教諭時代、村松・村上・新発田の三校でテニス部監督として北信越大会や全国総体等にも出場させていただきましたが、ことあるごとに全国高体連テニス専門部副部長の関沢敏美先生（S三四年理・数卒）にお世話になりました。そして、教頭・校長時代には、同窓の優れた先生方から、当時の課題になっていた学校五日制への対応や教育課程や冷房

機の設置やその他学校経営に関わる有用な情報をいち早く教えていただき、学校経営に大いに役立てることができました。私もこの三月末をもって定年で退職しますが、「ありがたきかな同窓は！」という感謝の気持ちで一杯であります。

現在、大学の格付け評価を行う民間の機関があり、格付け評価が行われています。研究・教育・就職等の実績など幾つかの項目がありますが、東京理科大学は高い評価をいただいているのです。その中で、同窓会活動という項目があります。この項目だけは、他の有名大学に水をあけられています。自分自身振り返っていても、積極的に同窓会活動に関わることということが少なく反省させられます。

現在、理窓会新潟支部で把握できている会員数は六百人弱、事業は総会、研修会の開催、会報の発行などが主なものです。県内を上・中・下越の三地区に分け輪番で総会を開催していますが、若手の参加が少なく、若手の参加を促し世代を超えた同窓の輪を広げることが課題です。

県内でいろいろな分野で活躍されている同窓の方々が多数おられます。一人でも多くの方々と出会うことのできる場をつくりたいと考えています。

皆様のご指導、ご支援をいただきましたことよろしくお願ひ申し上げます。

◆新潟支部総会◆

平成21年8月22日(土)理窓会新潟支部総会が上越地区のお骨折りにより、高陽荘で開催されました。総会での議事の内容につきましては、

後述の通り承認されましたことを報告いたします。

今回は、理窓会幹事長の児島紘様、理科大学理事の渡辺恒夫様においていた



平成21年度理窓会新潟支部総会

き、御講演を賜りました。また、新潟父母会の田中敏彦様にも御出席いただきました。心より感謝申し上げます。来年度は下越地区の当番となっておりますので何卒よろしくお願ひいたします。

◆役員改選◆

支部長 木南 誠
副支部長 岩根 卓司
森 久 中野 政幸

地区幹事 坂上 隆 熊谷 正美
水島 繁満 佐藤 茂樹
加藤 弘 日野 顕英

県幹事 上野 順治 竹内 文亮
平成21年度版名簿に記載
平成21年度版名簿に記載
平成21年度版名簿に記載

顧問 平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

平成21年度版名簿に記載

・会員名簿発行(3月版)

3月下旬 A4 24頁100部

◇平成20年度会計収支決算◇

○収入の部

繰越金	287,640円
会費	69,160円
臨時収入	4,000円
本部補助	65,000円
雑収入	33,990円
合計	459,790円

○支出の部

支部総会補助	30,000円
会議費	27,210円
名簿・会報	13,665円
送料	67,060円
事務用品	1,690円
資料代	6,000円
合計	145,625円

◇平成21年度会計予算◇

○収入の部

繰越金	314,165円
会費	70,000円
臨時徴収	5,000円
本部補助	65,000円
雑収入	4,835円
合計	449,000円

○支出の部

支部総会補助	60,000円
会議費	20,000円
地区還元金	4,000円
名簿・会報	20,000円
送料	73,500円
事務用品	10,000円
資料代	6,000円

予備費 255,500円
合計 449,000円

雪の思い出

副支部長
竹内 文亮



例年になく雪による交通への影響を受けましたが、皆

様はいかがでしたか。

雪と聞くと大学受験と東京生活での雪のことを思い出します。昭和四十六年(一九七一年)、理科大が初めての東京での受験でした。当時は上越市に居て、ゴムの長靴で雪の中を歩いてました。雪が降ると母親がカンジキを履いて雪の中に道を付けていたので、膝まであるゴム長での生活が当然でした。

受験が近づいた二月、すでに受験が終わって帰ってきた生徒から、上京するにあたっては短靴(当時は長靴に対してこう呼んでいました)で行った方が良いと言われ、下駄箱の中から短靴を探しました。高校生の時は下駄か長靴しか履かなかったのですが、短靴はそれこそ旅行の時ぐらいいしか履きませんでした。その短靴を何ヶ月ぶりに履いて、雪の降る中をゆっくりゆっくり、先の人と同じ歩幅で足跡の上を歩いたことを覚えています。それこそ、十二月から三月までは長靴しか使わなかったのが、雪の中を長靴以外の靴で歩くなんて考えたこともなかったので、受験とは大変なものだと思いまし

た。このことは、冬季にスカートを穿いた女子生徒を見るくらいにまれなことだったので。当時は冬季に女子生徒は全員スラックスでした。四月の新学期になって初めてスカートを見ます。それがいつから、冬季でも女子はローファーとスカートになったのでしょうか。変わりに変わったものです。

電車に乗って碓氷峠を過ぎると空が一変します。鉛色から青空に変わり、日がまぶしく感じます。高崎が近づくころには雪が全く無くなります。驚くことばかりで、車中での勉強は全く身に入りません。上野の駅のホームに降り、自分は別世界にきたことを改めて感じました。そして、受験の教室のことです。スカートを生きて、真っ赤なコートを纏った受験生が隣に座りました。その姿や色合いを見て、東京とはすごいものだともまた驚きました。

東京では2月に必ず雪が降りました。水をたっぶり含んだ雪で路面が覆われ、そこをいわゆる短靴で歩くので、下宿(今はまず無い、本家に民家への下宿でした)に着くまでに靴の内側までがびしょびしょになったことを思い出します。雪に見舞われるのは、たいてい後期試験の頃でした。電車が遅れたり動かないことがあったりと、雪が降るとあいつはどうしたとか、絶対に来られないはずだとか、学生達は落ち着きません。そうこうしているうちに、雪が突然の休講やテストの延期をプレゼントしてくれれます。なんだかそれが妙に嬉しかったのを覚えています。

タイヤにチェーンも巻くこともなくなつて二十年以上が経ちます。私の子達はチエーンすら知りません。それこそローファーを履いて、素手でクルマに積もった雪を払っているのを見ると時代の変化を感じます。

雪が降り、大学受験が近づくと、なぜかこんな思い出が蘇ります。

高田校数学科子と論議

S 57理・数
中田 博文

高校数学教員として高田北城高校、高田高校と合計十数年勤めさせていただいております。

現在勤務中の高田高校は上越地区の進学校として実績のある学校であります。生徒はセンスがあり、理解力に優れています。一直線に計算を進めたり、単純に数字を足したり掛けたりすることに關してはとてもすばやく反応してくれます。中学校での数学はほとんどが一直線で、途中で文字を使用して立式する必要もあまりなく、とても良い成績を残してきているのではないかと考えられます。

一方、高校数学の内容はどうでしょうか。場合分けして、ケースごとに解くことや、否定形の形で考えることなどが日常茶飯事になります。この否定形の論理展開は欠かせず、例えば無理数であることの証明は、無理数という定義自身に有理数でないという否定形が入っており、必然的に背理法の形に当てはめることになりす。センスのある生徒は、肯定の形で理解することは非常に得意なので、否定の表現に出会うとすんなり頭に

入ってこないため非常に戸惑ってしまいう
ようです。

心理学の本に書いてあったことなので
すが、否定形というものはすんなり潜在
意識に入らないそうです。例えば「牛乳
をこぼさずに運びなさい。」という言葉
は、潜在意識に落ちていく際に否定形の
部分が欠落してしまつて「牛乳をこぼし
て運ぶ」となってしまうのだそうです。

自分が普段授業でしゃべっている言葉遣
いを思い出ししてみるととても多くの場面
で否定形を使っていました。「もし、そ
うでないとすると・・・」、「こうでない
とうまくいかない」などです。前向きの
思考が大事だと巷では言われているので
すが、どうして数学の世界では否定形の
論理展開が多いようです。

普段の授業でも、出来るだけ否定形を
使わないように気をつけているのです
が、なかなかうまくいきません。しかし、
このような論理展開になれて、考えを伝
えていく訓練が必要で、そのために数学
を学んでいるとも考えられます。

毎日、代わり映えない授業を繰り返
しております。少しでも力をつけさせる
べく工夫を重ねるべきと考え反省する次
第です。

がんばれSF

S59理2・数

横尾 則幸

子供の理科離れが叫ばれ、我々理科大
好き人間の集まりである理窓会員として
は悲しい思いであります。教育課程の改
訂など様々な手段が講じられています
が、なかなか問題解決の決め手にはなっ

ていないようです。

最先端のロボット開発に携わっている
技術者の多くが、その動機を「アトムを
作りたかったからだ」と言っています。
そういうば子供頃、「鉄腕アトム」や
「サイボーグ009」など手塚治虫、石

ノ森章太郎のSFアニメに夢中になり、
松本零士の「宇宙戦艦ヤマト」でワー
プを覚えました。かつては、「子供に夢を
与え、子供はそこからいろいろな興味・
関心を持ち、知識を得る」そんな漫画や
アニメが多くあったと思います。皆様も
思い出に残るものがいづつかあると思
います。

今の子供たちは、そんな漫画やアニメ
を見ているのでしょうか。現在、放映さ
れているアニメは、我々の世代向けの続
編や難解なものばかりではないでしょ
うか。ぜひ、子供が科学に興味を持つき
かけとなる漫画やアニメを作って頂き
たいと思います。また、古いものでも、良
いものはどんな子供たちに見せてあげ
たいものです。

最近の思い

H3理工修・応生

高橋義之

先日、ラジオのインタビュ番組に出
演させて頂きました。早朝の放送でし
たが、思いもよらない方から「聞いたよ
」と声をかけられ、こそばゆい思いをし
ました。何をどう話せばいいのかからな
いままに、インタビュに答えたので
すが、これまでの教員生活を振り返る重
な機会を頂けたように思います。特に
瀧南高校でのSSHを巡る話題につい

て、勝手気ままにお話してしまつたな
か

で、いろいろ考えさせられました。最初、
SSHなんてという思いの中、多くの
先生と大きなストレスを抱え、スター
トしたことを思い出します。ほんと、散
々な思いもあつたのですが、振り返ると、
その時間がキラキラと輝いて思えます。

先輩方は、よくご存知のことなのでしょう
が、やはり、もがいていた時間は、そ
の時はホント辛くても、あとで眩しく思
えるものですね。大袈裟なかもしれま
せんが、これからの時代、一歩前に進む
ためには、今までやってきたことから、
とび出さないといけないあとと思うこと
が、こしばらく続いています。新たな
価値を創っていくには、まさしく、も
がなければいけない時代のような気がし
ています。ホント、もがくのはつらいの
ですけれど、でも、あとで自然と顔がに
やついて満足に思えるのは、もがいて
いた経験です。ブルーになることなく、残
りの教員生活をものがうかなあとと思
っています。

能の島

S58理・化

中田 亮一

先日、佐渡中等教育学校において能舞
台の鏡板（松羽目）のお披露目を兼ね、
生徒による能楽の発表が行われた。鏡板
の絵は渡辺富栄先生によるもので、迫力
ある老松の重量感もさながら松の青に清
清しさを感じるものである。鏡板の前に
並んだ生徒の顔にあどけなさが残る中、
右手に扇子を持ち背筋を伸ばし正座のま
ま独特の節回しで演ずる姿には、文化の

伝承者としての自負が強く感じとれた。

佐渡中等では、郷土を愛し地域に貢献
する態度を育成するという教育目標を
現するため、スクールカルチャーとして
「能楽」に取り組んでいる。生徒は総合
的な学習の時間を通じ謡の練習をしたり、
「本間家定例能」にも出演し、結構な賞
賛をいただいた。「将来、外国に出た
と」に日本の文化を体験として語ること
ができる。こんな言葉が生徒の口から
出てくる。

佐渡には今でも33の能舞台がある。
かつては200以上もあつたという。佐
渡奉行の大久保長安が能楽師の一行を伴
い島に渡り、そこから能が広がったとい
うことを聞いた。世阿弥も佐渡に流され
この地で生活を送っていた。佐渡は能と
縁が深く、本当に能が盛んな島だつたの
だろう。

しかしながら、実のところ佐渡に住
んでいると能が身近な存在であるとは到底
感じられない。むしろ特別なもの、近寄
りがたい存在である。

私も昨年から能の稽古に誘われ謡の指
導を受けている。覚えるよりも忘れる方
が早く、長い正座に耐え切れない。学び
たいという気持ちと裏腹に早く逃れたい
という思いが支配し、上達の気配はない。
それでも学ぶことは楽しい。知らないこ
とを知り、異文化に触れる楽しみがある。
せっかく佐渡に居るのだからその間だけ
でも続けたい。どんなきつかけであれ、
能のことを知り、体験することができた。
生徒達のように自信を持って日本の伝統
文化を自らの言葉で語るようになること
は難しいが、佐渡での暮らさなければ得

られなかった財産であることは間違いがない。

工業製鉄口咽の品質

S50工・機

佐藤茂樹

グループ全ての生産量が世界のトップシェアである半導体シリコンウエハの製造会社に籍を置いて30年近くになろうとしている。周知のようにシリコンウエハが集積回路、トランジスタの基板として現代科学技術を支える不可欠のものとなつて久しい。そしてIT社会を先導するこのウエハ、デバイス(IC・TR等)の製造技術の進歩には驚くべきものがあり、数年前の技術がほとんど陳腐化するという恐ろしいほどのスピードである。ウエハ直径も少し前までは200mmが主流であったが、現在は300mm、近い将来は450mmとも予想されている。

ところでこの半導体ウエハの品質なるものは主に、「平坦度」、「表面清浄度」、「結晶欠陥フリー」、「重金属フリー」などであり、当然のことながらこれらの評価結果が納入先の要求品質を満足しなければならぬ。従つて製造段階での種々管理が重要となつて来る。この評価値は要求仕様を大きくクリアする必要がある、製造コストの面から、個々の製品バラツキが小さく且つ全ての製品が仕様をギリギリ(ちよつと語弊があるが)満足するのがベストである。過剰品質は製造コストを圧迫し企業収益に悪影響を与える。

今、日本企業を代表する自動車メーカー

ーがアメリカなど海外で起こした品質問題で大揺れに揺れている。年間生産量を超える数のリコールの実施である。更に自動車不況脱出の牽引役であつただろうHV車の不具合が追い討ちを掛けている。

「品質のT社」がなぜこんな状況に・・・、という議論がマスコミをにぎわしているが、思うに、相反する「製造コスト」と「顧客の求める品質」をギリギリのところでバランスさせることに失敗したのであろう。問題を大きくしているのは、この品質が車としての究極の安全に関わるアクセルやブレーキ性能だということもある。

最近の自動車は一時代前と違い「走る電子機器」と言われるそうである。益してやHV車は通常の車の4倍ほど半導体が使われており、当社のウエハもかなりの数量が国内、海外のメーカーで採用されているはずである。運転操作に関する負担軽減を人の頭脳、手足に代わり行う技術を否定するものではないが、そこに異常が発生することのないよう最善を尽くすべきである。技術は進んでも最後は人である。

品質管理手法も近年ISO9000、TS169...などを管理システムとして取り入れる企業も多いが、一昔前の日本的品質管理手法でよく言われた「品質管理は人質管理」が思い出される。

特別支援教育と教科教育を考える

S56理・数

熊谷 正美

二年ほど前に、大阪医科大学LDセン

ターの医学博士である竹田契一先生のお話を伺う機会がありました。そのお話の中で、「特別支援教育は、今まで以上に丁寧な子どもに対することであり、これは明治以来の最大の教育改革であり、同時に、教員の意識改革でもある」というお言葉が大変印象的でした。

また、特別支援教育を「特別な子どものための特別な教育でなく、通常の学級に七七八八いると言われる軽度な発達障害を持つ子どもの指導を中核に、個のニーズに合わせた教育として、全校体制で長期的視野に立つて実現してゆこうという教育が始まったのだ」と述べられました。加えて、障害を持つ子どもの自尊心の向上や不快体験の減少でフラッシュバックを起こさない手立てをしなれば、学校教育として配慮に欠けると言われる時代がやって来たとも話されました。

不登校への対応についても発達障害の視点から見ると別の指導の手立てが見えてくることもあります。解決への方法のバリエーションが増えることは重要なこととです。

最近、仕事柄(下越教育事務所・指導主事)小中学校の算数・数学の研究授業を見させていただく機会が多くあります。もちろん統計的に言及されている通り、ほとんどの学級で、数人の「軽度な発達障害」とも考えられる子どもが教室と一緒に学習している姿を見ます。

学校では、いままで、個に応じた指導として、学習の機会をすべての子どもに保障する手立てを講じてきました。現在、特別な支援を要する子どものために行う

指導として言われている、教室の掲示を気の散らないように工夫するなどの環境整備や、授業中に、課題の提示時にキーワードを明確に表現するとか、補助教材をいくつか用意することなどは、従来の「個に応じた指導」の延長線ではありません。むしろ、学校は、今まで学習についてこれられない子どもを「切り捨て」ていなかったかを反省し、指導計画をつくり、実践して改善することが求められているのだと思います。

最後になりますが、発達障害の子ども個別の教育支援計画に基づいた幼小中の高の行動連携は当然のこと、発達障害の疑いのある子どもについては、診断名の有無に関わらず、その子どもに応じた手立てを特別支援教育の視点・手法を組み入れて探ることが今後の課題のように考えます。

◇事務局からの連絡◇

- ①会報「新潟理窓」について
 - ・事務局怠慢により発行が遅れたこととお詫び申し上げます。
- ②支部会費について
 - ・年会費は1000円です。同封の振込用紙にてお願いします。同封されていない場合は納入済みです。
- ③名簿について
 - ・支部会費納入確認後、該当者に送付いたします。この発送が遅れておりますこともお詫びいたします。

④事務局連絡先

新潟市秋葉区新金沢町29-14上杉肇
電話&fax 0250220312
e-mail:GH03107@mity.ne.jp